

## 「生活支援技術」のInnovation創出施策

- 生活支援技術の確立を目指し、個別施策のPortfolio化により選別・統合化を図り、目的・目標達成を期待できる施策群を、最重点、重点施策(S相当)として位置付ける
- H23年度は「雛形にふさわしい施策」のみ先行的に特定
- Portfolioに挙がる個別施策は、国内外の研究進捗を反映して毎年見直すこととし、全体目標の変更要否も確認する(特に要素技術の急速な進展は、全体進捗に大きな効果をもたらすことから、積極的に入れ替えを実施)
- 2020年までに研究進捗の予測が立ちにくい基礎・基盤研究は、イノベーション創出とは別の「プラットフォーム研究」として実施する
- 最重点、重点施策の目標達成に不可欠な人材育成、拠点形成、制度改革などの基盤整備は、当該施策の中に織り込む事とする

# 高齢者・障がい者の生活支援技術(分類例示用)

(分類イメージ:順不同)

## 介護者の負担をサポート

支援動作	支援内容
トイレ	省力化
精神安定	認知症のケア、心労の低減
リハビリ(ADL)	身体的支援を省力化
見守り	被介護者の動作認識・確認の自動化、省力化、地域包括ケア
風呂	入浴支援の省力化・自動化
着替え	介護者の動作支援
意思疎通・コミュニケーション	被介護者の意図理解、会話の円滑化
移動	被介護者の自立支援
食事	被介護者の自立支援
ベッド移乗	介護者の動作支援
体調管理	データ取得・登録の省力化、遠隔管理、地域包括ケア

## 被介護者の身体的・精神的負担をサポート

支援動作	支援内容
精神安定	認知症のケア、活気の向上、会話の増加
意思疎通・コミュニケーション	被介護者の意図伝達、会話の円滑化
トイレ	自尊心の尊重
風呂	入浴の簡易化
リハビリ(ADL)	身体的・精神的支援を高度化
食事	自立支援
着替え	自立支援
移動	自立支援
ベッド移乗	自立支援
見守り	安心感をもてる見守り、地域包括ケア
体調管理	医療サービスとの連携、地域包括ケア

\* 被介護者の心理的観点を考慮することが前提

# 生活支援技術PORTFOLIO(分類例示用)

先進性

- ①2020年までに施設向けに実用化
- ②国際的先進的技術で支援効果大  
(自立支援、介護者支援、地域包括ケア等)

施策名	施策番号	対象
自立支援機器	S2-1	ベッド移乗・移動、リハビリ支援
介護支援機器	S2-2	着替え、移乗の介護者による支援

- ①2020年までに在宅介護向けに実用化
- ②国際的先進的技術で支援効果大  
(自立支援、介護者支援、地域包括ケア等)

施策名	施策番号	対象
脳活動活用情報通信	S3-1	障害者の自由意思疎通システム

S2	S3
S1	S4

- ①2020年までに施設向けに実用化
- ②実証・臨床フェーズで加速効果大  
(自立支援、介護者支援、地域包括ケア等)

施策名	施策番号	対象
認知症対策・心のケア	S1-1	認知症ケア、精神安定
介護・自立支援機器(規制・制度)	S1-2	支援機器・システムの安全・標準

- ①2020年までに在宅介護向けに実用化
- ②実証・臨床フェーズで加速効果大  
(自立支援、介護者支援、地域包括ケア等)

施策名	施策番号	対象
ネットワーク利用ロボット	S4-1	見守り・体調管理による地域包括ケア
障害者自立支援機器	S4-2	障害者の基本会話支援
福祉用具開発	S4-3	被介護者の心理的観点に配慮した食事等の日常生活支援機器

加速

施設向け

在宅介護向け

\* 施策の選定にあたっては、被介護者の心理的観点に配慮することが前提である

# 生活支援技術のPortfolio作成にあたっての考え方

- 個別施策の選別・統合に当たって、以下を基本指針とする
  - \* 高齢者の認知機能・身体的機能を補助・代償する機器の開発・導入
  - \* 障がい者が使いやすい支援機器の開発・導入
  - \* 介護者の身体的・精神的負担を大幅に軽減するもの
  - \* 地域包括ケアのための見守り・健康情報管理サービス等による介護の質の向上と効率化
  - \* これらの機器、サービスを広く普及させるための施策、制度等の見直し、及び国際展開の推進により、新産業や雇用の創出
  - \* 既存技術との比較で技術の適用効果の優位差の大きさ
- 選別された個別施策群を統合化した上で、以下を勘案し最重点施策、あるいは重点施策（S相当）として位置付ける
  - \* 実現可能性
  - \* 効果の大きさ（目標達成への貢献度と既存技術に比較しての効果の大きさ）
  - \* 事業費総額